ジブリの森のえいが

めいとこねこバス







ジブリの森のえいが

めいとこねこバス

原作・脚本・監督：宮崎 駿

音楽：久石 譲

制作：スタジオジブリ

スタジオジブリ・マンマユート団 提携作品

上映時間：13分43秒






風のつよい日、メイがキャラメルを食べていると、
つむじ風があらわれ、おいかけてきました。











つむじ風の正体はコネコバスでした。
メイはコネコバスにキャラメルをあげて、ともだちになりました。


ちっちゃいねェ
あなたこどもなのね


のせてくれるの
ヒャーハハハ



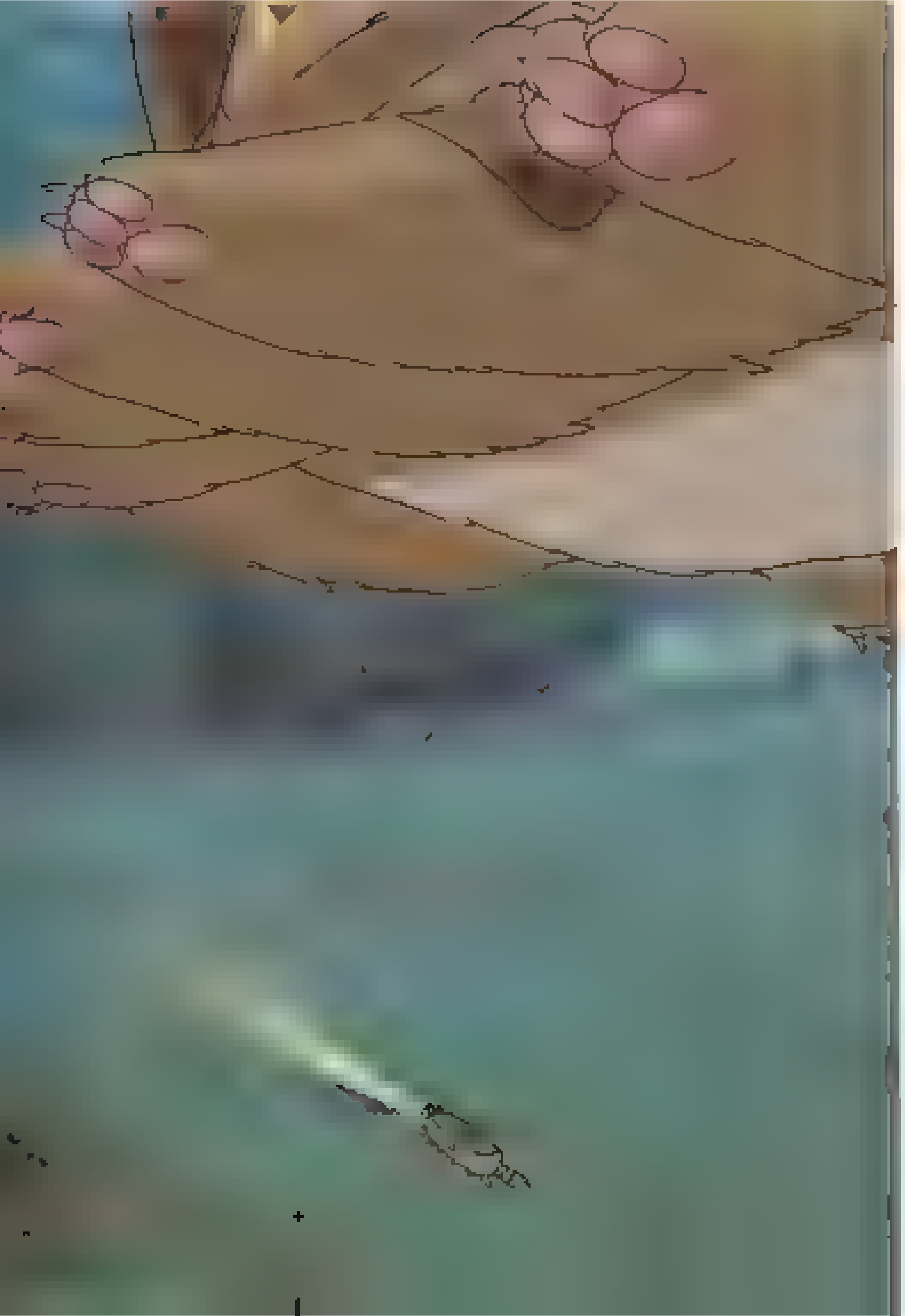






その夜、コネコバスがやってきました。
メイはコネコバスにのってでかけました。

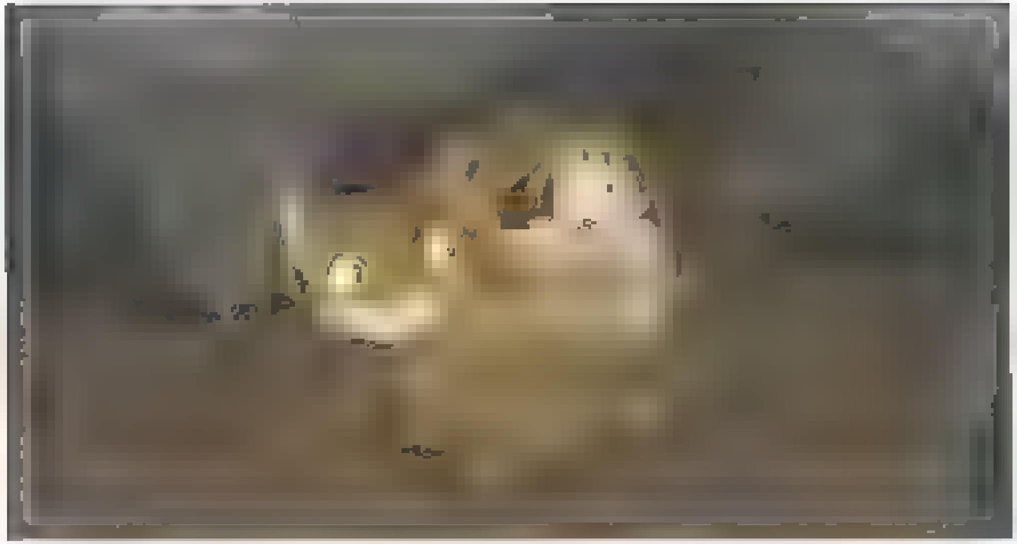


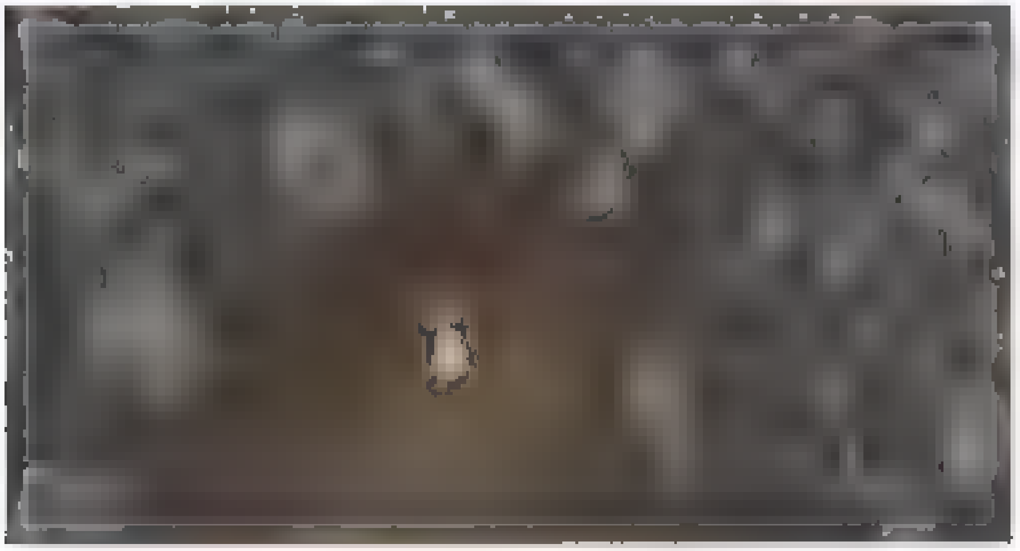






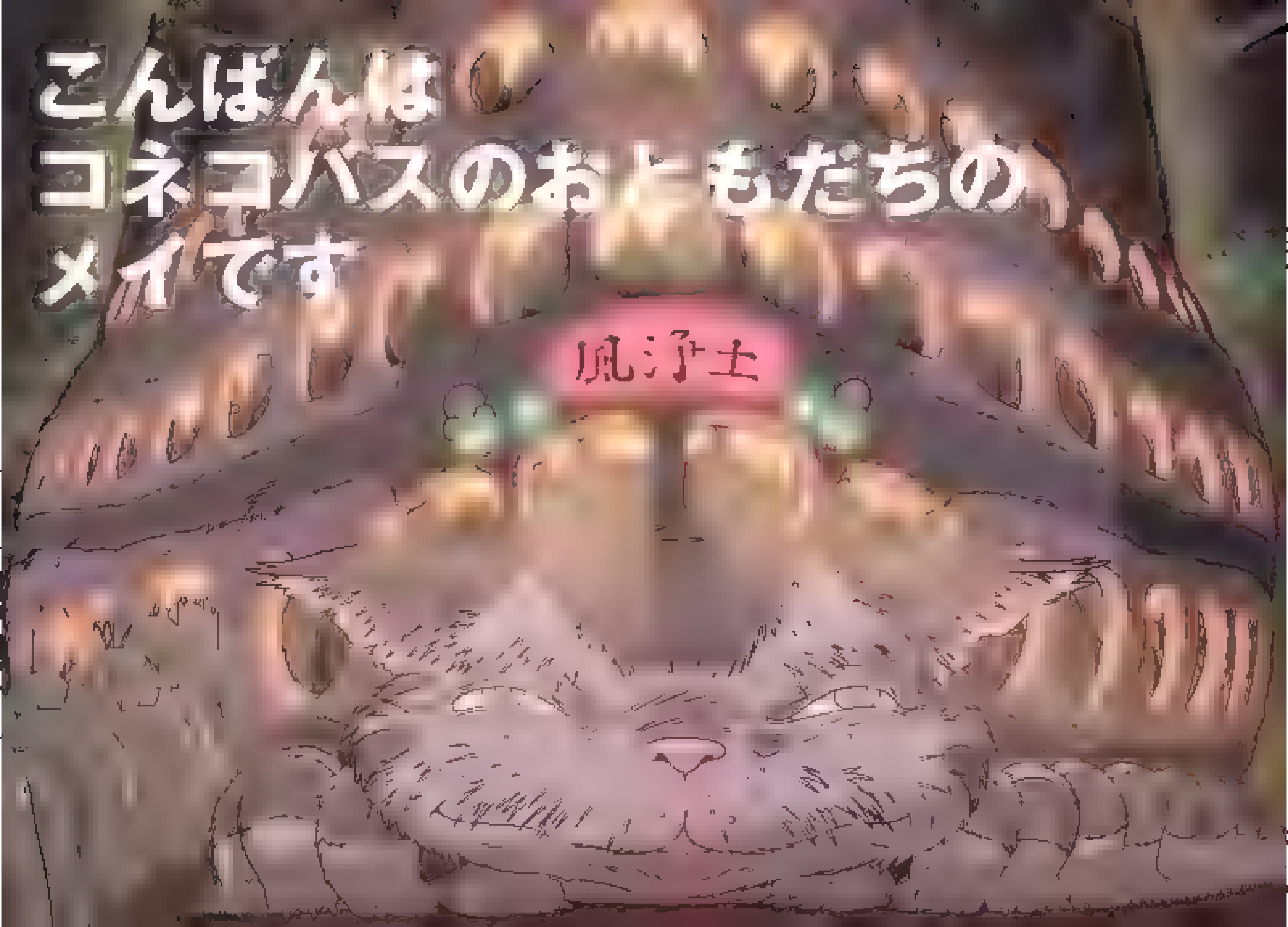
見たこともないたくさんの
ネコバスが森へあつまっていきます。






森の中にはお化けがたくさんいました。
メイがあたりを見まわすと、トトロがいました。


トトロ!!


こんばんは
コネコバスのおともだちの
メイです





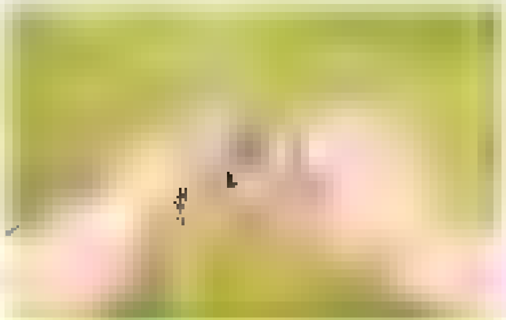

メイはネコバアちゃんにキャラメルをあげました。
ネコバアちゃんはお化けたちをのせて空へ、メイはコネコバスにのって家に帰りました。

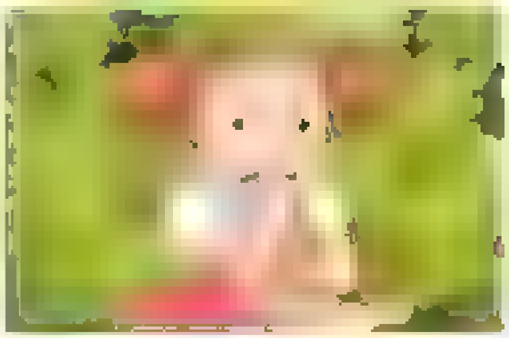



子どもの時間
「めいとこねこバス」によせて
北原和子



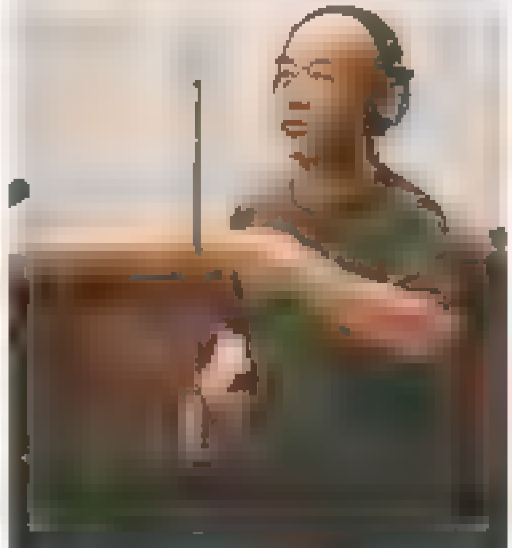
「めいとこねこバス」
誕生までの話

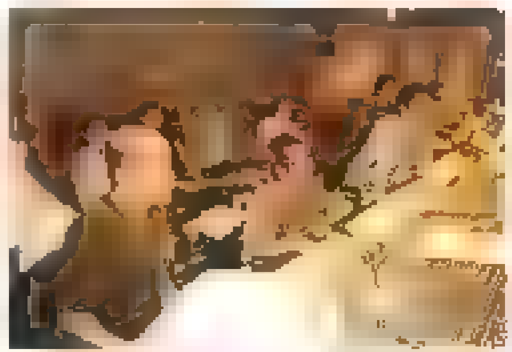








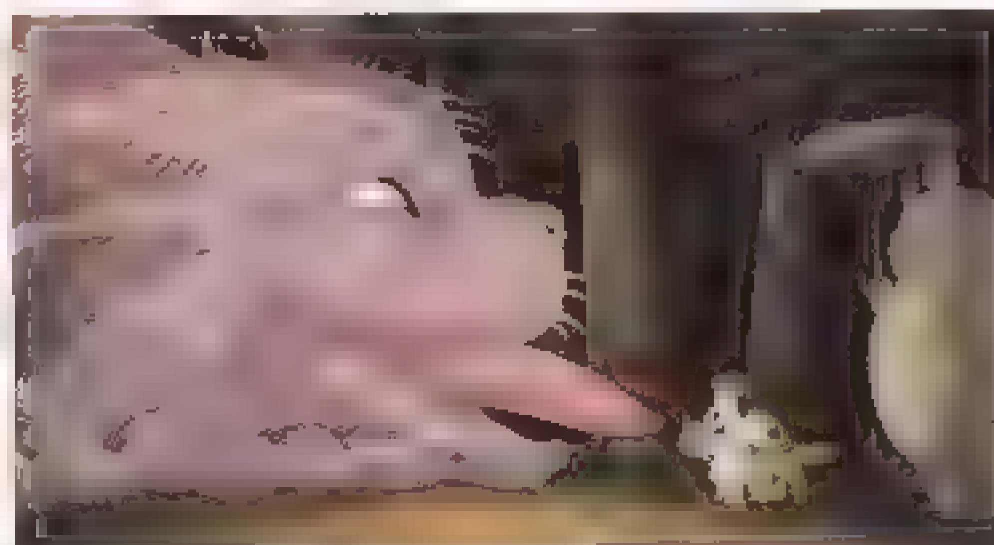












ちゃんがキャラメルを食べてもがき苦しむシーンにはこだわって、何度も録り直し録り直していましたね」

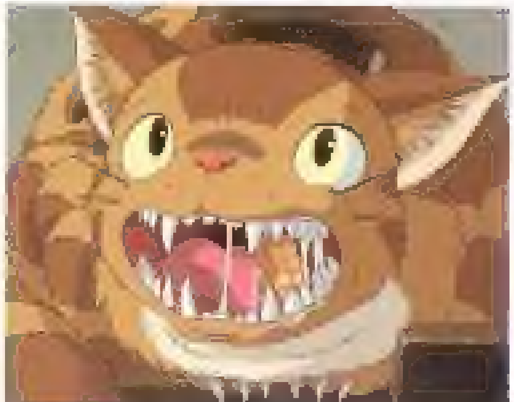
ちなみにその他、コネコバスとお化け役に関しては、ジブリのスタッフと、劇団・文学座の方々が担当。みんなそれぞれに楽しみながら収録に挑んだ。

この作品の作画枚数は約15,000枚

この作品を作るのに描かれた作画枚数は約15,000枚。これは13分43秒という短い作品においてはかなりの枚数だ。そこには宮崎監督をはじめ、監督が「動物をかわいく描かせたらこの人の右に出る人はいない」と推薦した演出アニメーターの二木真希子さん、その他のスタッフの「作品を楽しく、完成度の高いものにしたい」という想いが込まっている。特にコネコバスが小さなつむじ風の状態でメイを追いかける冒頭のシーンや、メイをのせたコネコバスが電線の上を飛んでいるところ、森の中でたくさんのお化けがうごめいているところなどは、一つ一つの動きをいかに丁寧にリアルに躍動感あふれる感じで描くかということが細かく考えられている。その結果、全てのキャラクターが生き生きと表情豊かに動いて見える。



森のシーンに登場するたくさんのお化けの声を担当したジブリのスタッフたち



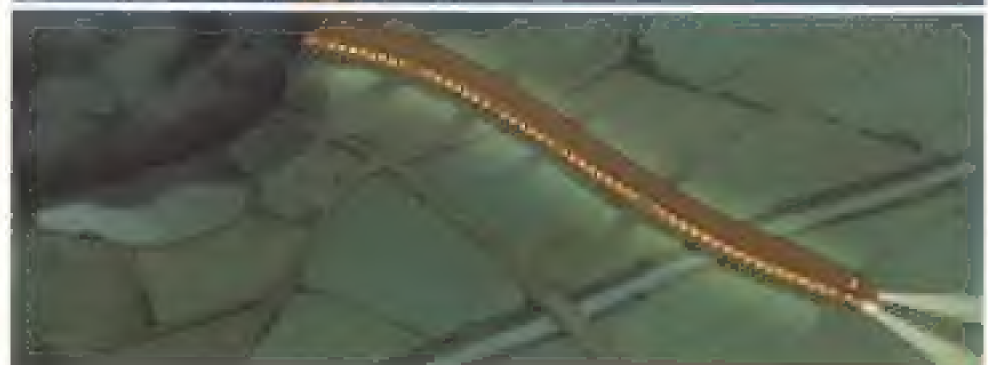


コネコバスやネコ列車が登場

この作品には「となりのトトロ」に登場したネコバスをはじめ、新しい種類のネコバスの仲間を見ることができる。それがはっきりわかるのはメイを乗せたコネコバスが森に入っていくシーン。ものすごいスピードで走る列車の形をしたネコ列車がその一つ。もう一つはメイが森で出会うネコバアちゃん。尻尾が8本あるネコ列車の面白さもさることながら、やはり印象的なのは空を飛ぶと飛行船のようになるネコバアちゃん。尻尾はまるで船のスクリューか、プロペラのようにクルクルとまわっている。これにはさすがのメイもびっくりというところだろうか。だが、これらの動きを描くにあたっては、宮崎監督と演出アニメーターの二木さんの間で何度も話し合い、それぞれに特徴のある動きにしようと試行錯誤が繰り返されたという。

そのかいあって、ますますネコバスの世界が広がった気がする。どこかにまだ我々が見たことのないトトロやネコバスの仲間がいるかもしれない。

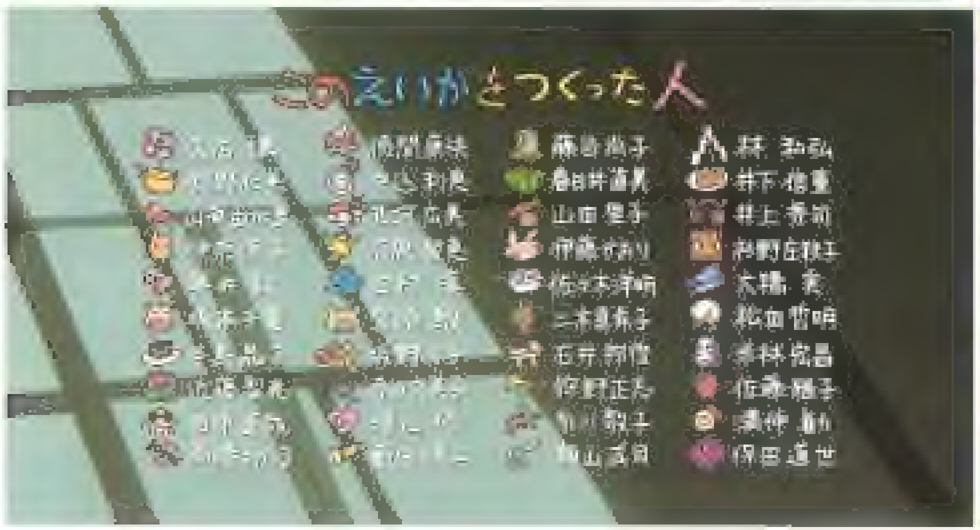





スタジオジブリ・マンマユート団
[スタッフ]
スタジオジブリ
プロデューサー
IMAGICA









発行日：2002年10月31日初版　2003年6月30日第5版　発行人：宮崎吾朗　編集：今西千鶴子　編集協力：株式会社徳間書店スタジオジブリ事業本部
発行所：財団法人徳間記念アニメーション文化財団　東京都三鷹市下連雀1-1-83　三鷹の森ジブリ美術館　印刷・製本：図書印刷株式会社　定価 400円（税込）



TMCFA - 005 [409]
4 571101 908312